



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

《区民祭りボランティアのみなさん、本当にありがとうございました！》

10月5日（土）・6日（日）の両日で、北区区民祭りが開催されました。2日間に渡り、飛鳥山会場と滝野川会場の合計で32名もの堀中生のみなさんがボランティア活動に参加してくれました。地域の皆様とともに働くことで、地元を愛する想いや思いやりの心に触れて、温かい気持ちになりました。休日にも関わらず、ボランティア活動を一生懸命してくれた生徒のみなさん、そして、このようなボランティア活動の機会を与えてくださった地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。



《創立70周年記念式典・祝賀会、盛会のうちに無事終わることができました。ご協力・ご支援ありがとうございました！》

10月12日（土）に、堀船小・滝野川第五小の体育館をお借りして、創立70周年記念式典・祝賀会を盛会のうちに無事終わることができました。快晴に恵まれたこの日は、北区長 やまだ加奈子様、北区議会議長 大沢たかし様、北区教育委員会教育長 清正浩靖様をはじめ、多くのご来賓の方々のご列席を賜り、午前10時より記念式典を堀船小体育館で行い、午後1時30分より祝賀会を滝野川第五小の体育館で盛大に挙行することができました。堀船小学校の松本校長先生、滝野川第五小学校の高草木校長先生にも快くご協力いただきました。誠にありがとうございました。

この度の70周年記念行事に際しましては、70周年記念事業協賛会会長 松本晴光様、副会長 榮隆男様、実行委員長 議波壽男様をはじめ、各町会・自治会長の皆様、協賛会の皆様、並びに本校新旧PTAの皆様方に多大なるご支援・ご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。式典に195名、祝賀会に205名と、大変多くの方々のご臨席を賜り、お祝いをしていただきました。本当にありがとうございました。

【式典】



【祝賀会】



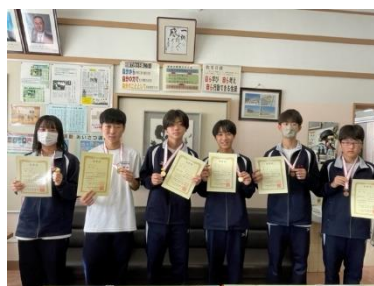
《創立70周年にふさわしい、心のこもった最高のほりふな祭でした！》

10月19日（土）、ほりふな祭を滝野川会館で開催しました。「重ねてきた歴史 つないでいく堀船魂 ～感謝で届ける70周年の響き～」をスローガンに掲げたほりふな祭は、創立70周年にふさわしい、心のこもった最高の会でした！ご来場くださったご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様、誠にありがとうございました。



《祝 男子バドミントン部 団体・男女個人優勝!! おめでとうございます!!》

10月6日（日）、バドミントン部秋季大会が行われ、男子団体戦で優勝しました。さらに13日（日）に北区秋季大会個人戦が行われ、女子シングルスで阿部さんが優勝。男子はシングルスで河村さん優勝、ダブルスでは西丸さん・上浦さんペア優勝、嘉島さん・中山さんペア3位と、素晴らしい成績をおさめました。11月のブロック大会出場も決定。本当におめでとうございます。



《祝 女子バレーボール部ブロック大会出場!! おめでとうございます!!》

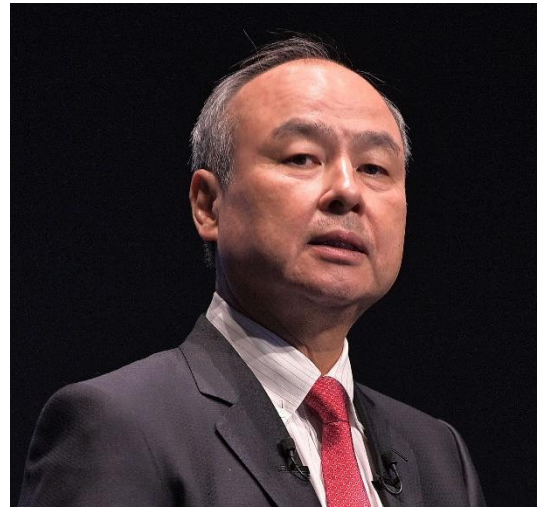
10月5日（土）、女子バレーボール北区秋季大会が行われました。前週に勝ち抜いていた堀船中女子バレー部は、この日は浮間中と滝野川紅葉中を下して見事6位入賞を果たし、念願のブロック大会出場の切符を獲得しました。近年のバレー部では初となるブロック大会の出場は素晴らしいことです。創立70周年のこの年に、記念すべき快挙となりました。本当におめでとうございます。



アントレプレナーの生き方（4）～孫正義氏 その2～

1990年7月、孫氏は事業のグローバルな展開を見据えて、株式会社日本ソフトバンクからソフトバンク株式会社(現 ソフトバンクグループ株式会社)に社名を変更しました。この時期のソフトバンクは、米国で誕生した事業を続々と日本に持ち込んでおり、その一環として、現地のインターネット関連企業に関する情報収集や戦略的投資を目的に、米国法人 SoftBank Holdings Inc.を設立しました。

また、日本におけるインターネットビジネスへの本格的な展開を図るため、米国 Yahoo!Inc との共同出資により、1996年に日本法人ヤフー株式会社(現 LINE ヤフー株式会社)を設立しました。孫氏はこの1996年を「インターネット元年」と位置付け、Yahoo!JAPANを筆頭に、インターネットに関する事業や子会社を次々に立ち上げていきます。「モバイルインターネット時代が来る」と確信していたソフトバンクは、2006年にボーダフォンの日本法人を買収し、移動通信事業に大きな力を注いでいくのです。



孫 正義氏

【提供 ソフトバンクグループ株式会社】

さて、孫氏とソフトバンクが行ってきたことを振り返るためにも、ここで現在の5Gまでに至る通信業界の30年間の歩みを簡単に記してみたいと思います。

1980年代中頃まで、電話といえば固定電話であり、現在のように電話機を携帯するという概念自体想像し得ない時代でした。しかし、ごく限られた人々の間で車載電話機(自動車電話)によって移動しながら電話をするという体験が始まると、1985年、ついに肩から掛けるバッグのような「ショルダーホン」が日本に誕生します。百科事典やアタッシュケース並みのサイズはもちろん、重量も3キロ近くあり、これを持って通話をしながら気軽に待ち合わせができるような代物ではありませんでした。また、この頃の通信システムのことを1G(第1世代移動通信システム)と呼びます。



携帯電話写真

【提供 ソフトバンク株式会社】

そして1990年後半には、常時接続が可能となるADSLが普及し始めます。いわゆるブロードバンド時代が幕を開け、インターネットが社会に急速に広まっていくと、やがて写真の送受信も当たり前になりました。なお、1999年の国内インターネット人口普及率は21.4%です。2000年には、GoogleやAmazonが日本でサービスを開始しました。

そんな中、ビー・ビー・テクノロジー株式会社(現 ソフトバンク株式会社)が2001年、ADSLを使ったブロードバンド総合サービス「Yahoo!BB」を開始しました。これ以降、ソフトバンクはそれまでのPCソフトウェアの卸売・出版事業から通信事業に本業の軸足を移すこととなります。なお、この頃には、3G、すなわちモバイルデータ通信時代に突入しています。光ファイバーによる光通信サービスが普及し始め、国内のインターネット需要もさらに加速し、2003年には64.3%の普及率を記録するまでになりました。日本では2007年にYouTube、2008年にはFacebookとTwitter(現 X)のサービスが開始されました。ソフトバンク「iPhone3G」の日本での販売を開始したのもこの年です。

2010年になると、「3.9G」と呼ばれる3Gを高速化したシステムにより、高速モバイル通信が可能となります。通信速度が固定通信のADSL並みになり、固定とモバイル通信速度の差が縮まりました。その後の「4G」

では、キャリアアグリゲーションなどの様々な拡張技術によって、超高速モバイル通信が実現されました。

そして2020年以降、いよいよ5Gの時代が到来し、私達の日々の生活は一層快適で便利なものとなっています。

こうした通信業界の歩みの中で、Yahoo!BBによるブロードバンド事業への参入は、孫氏にとって巨大通信企業NTTを相手にした大きな戦いでした。孫氏は、当時日本のインターネットを取り巻く環境は、先進国の中で最も「遅く」「高い」と感じていました。NTTとしては光ファイバーこそがブロードバンドの本命だと考えていたため、ADSLの普及には消極的でした。そうした状況を見て、孫氏はADSL事業参入を決め、しかも価格破壊にも挑みました。当時のADSLサービスの価格の相場は月額5,000円から6,000円程度でしたが、Yahoo!BBは月額2,280円でしかも通信速度もNTT東日本の5倍以上を宣言。さらに街頭で通信モデムを無料配布するというキャンペーンを全国展開す

る等、大きな話題をつくりました。

そして Yahoo!BB を成功させた孫氏でしたが、次なる目標は、「ガラケー」と呼ばれた携帯電話全盛期の日本において iPhone を発売し、スマートフォンを根付かせることでした。なぜソフトバンクが米国 Apple 社の iPhone を日本で販売することが可能になったのかについては、有名なエピソードがあります。

ある時、孫氏が Apple 本社に赴き、スティーブ・ジョブズ氏を訪ねました。孫氏は Apple 社の携帯音楽プレーヤー「iPod」と日本の携帯電話を組み合わせたスケッチを見せ、「こういうものを Apple で作って欲しい」と言ったそうです。それに対してジョブズ氏は、「スケッチの出来は褒められない。すでに考えているし、誰にも言っていないのにこれを持ってきたのは君が初めてだ」と、返したそうです。そして、2007 年 1 月、「アップルは電話を再発明する」と言ってジョブズ氏が世界に紹介したのが、初代 iPhone でした。この初代 iPhone は通信規格の関係で日本では使用できませんでしたが、翌年発売された「iPhone3G」を日本で販売したのが、他ならぬソフトバンクだったのです。iPhone の登場によって、携帯電話は、通話はもちろん、音楽も検索もアプリもできるインターネットマシンとなったのです。

このように、ソフトバンクは通信事業を中心としたビジネスで情報社会をリードして来ました。しかし孫氏はそれに満足せず、先端技術をさらに活用していくことによる通信事業を超えた新たなステージへの進出を目指し、近年では投資家としての側面を強めていきます。2017 年には、AI を活用して次世代のイノベーションを起こすであろう企業やプラットフォームビジネスへの投資を行うべく、「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」も立ち上げました。2024 年 3 月末時点で、ソフトバンクグループの時価総額は約 13 兆 2 千億円、通信事業会社のソフトバンクの時価総額も約 9 兆 2 千億円に上っています。

その後のソフトバンクも積極的に事業を展開していきます。2019 年 11 月、ヤフーの親会社でソフトバンクの子会社である Z ホールディングスと、日本を代表する SNS を運営する LINE の経営統合が発表されました。LINE は国内だけで 9,700 万人を超える月間利用者がおり、広告やコマーシャル事業なども展開しています。一方のヤフーは、検索やニュース配信などのサービスを手がけ、月間利用者はおおよそ 8,500 万人。両者が統合することで、検索や SNS、ネット販売、金融など、様々なインターネットサービスを一手に担う巨大グループが生まれたのです。

もともとヤフーという会社は、Yahoo!ID に紐づける形で、「出会う(メディア、広告)」、「調べる(検索、コマース)」、「買う(カート)」、「支払う(ウォレット)」、「利用する(サービス、コンテンツ)」といった一連のユーザーアクションに対し、100 を超えるサービスを提供するところに特徴があります。そこに LINE での各種サービスが加わることで同一の ID に紐付けられることになり、国内だけで 1 億人規模のユーザーを抱える、日本では最大級のビッグデータの基盤が形成されるのです。集客面では、利用者を Yahoo!ショッピング、Yahoo!フリマ、ZOZOTOWN などのサイトへ送信することによって、電子商取引を拡大しました。

次号では、孫氏が今最重要だと考えている「情報革命の主役」について迫っていきます。